

教科年間学習指導計画
ー シ ラ バ ス ー

教科名	国語	学年・クラス	3年工業技術科
科目名	国語表現	単位数	2
教科書	国語表現（大修館・国表305）		
準教科書	なし		

学 習 の 目 標			・意見を伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばす。 ・言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。				
学習の進め方			・教科書を基に、身近な例や社会の出来事などを交えながら読解力を深める。 ・プリントやノートを用いて、学習状況の確認を行う。 ・振り返り学習を行いながら、基礎基本の定着を図りつつ学習を進める。				
学習の留意点			・毎時間の出席を基本とし、学習用具（教科書、ファイル、ノート、筆記用具など）は忘れないこと。 ・分からないことはそのままにせず、その都度質問し、疑問解消に努めること。 ・授業規律を遵守すること。 ・学習、授業の妨げとなるような行動をとらないこと。				
評価の方法			出席状況、提出物の状況、各種テストの得点、授業の取組姿勢などを総合的に判断し評価する。				
評価の観点	関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。					
	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。					
	技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。					
	知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。					
授業の内容	学期	月別	時間	単元	学 習 内 容	学 習 の 観 点	資 質 力
	1 学期	4	12	書いて伝える	整った文を書く	・整った文を書くことができるか。 ・文のつなぎ方を理解できているか。 ・適切な文末表現を選択できるか。	主体 思考 対応 基礎 専門
		5	書	1 表記と言葉			
			1	単元テスト			
		6	12		2 係り受け 3 文末表現の統一		
		7	書読				
				単元テスト			
		8	10		4 適切な敬語	・適切に敬語を使うことができるか。	
		9	1	単元テスト			
			5	話	5 話し言葉と書き言葉	・話し言葉と書き言葉の違いを理解し、適切に使い分けることができるか。	
			1	単元テスト			
	2 学期	10	7	わかりやすい文を書く	1 長すぎる文を短文に 2 読点を効果的に使う	・相手に正確に伝わるように、文の長短、句読点の使い方、修飾語の置き方を理解し使い分けができるか。	主体 自他 コミ 思考 対応 基礎 専門
			1	単元テスト			
		11	7	読書	3 あいまいな文を避ける		
		12	1	単元テスト			
			10	読話	4 接続表現でつなぐ 5 文脈でつなぐ	・場面に応じて適切な接続表現の選択ができるか。	
		1					
		2					
		3	1	単元テスト			
	計	6					

教科年間学習指導計画
ー シ ラ バ ス ー

教科名	地理歴史	学年・クラス	3年機械科・建築科
科目名	日本史A	単位数	2
教科書	高校日本史A 新訂版（実教出版・日A309）		
準教科書	なし		

学習の目標				日本の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的の考察させ、現代の諸課題に着目して考察することによって、歴史的考察力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習の進め方				①教科書の内容を中心に、歴史的な事実を様々な視点から説明し、生徒の理解を深める。 ②資料などを示すことにより、歴史的な事実を理解しやすいように学習を進める。 ③ノート作りの作業を通して、学習内容の定着を図るとともに学習状況の確認を行う。			
学習の留意点				①毎時間の出席を基本とする。授業に使用する物（教科書・ノートなど）は、忘れず準備すること。 ②板書事項と授業内容を理解するためのメモを毎時間ノートに記入し提出すること。 ③授業における疑問の解消に努め、積極的な姿勢で授業に参加すること。 ④授業の中で提示される問題の解答に主体的に取り組み、毎時間提出すること。			
評価の方法				出席状況・授業への取組姿勢・ノートなどの提出状況・単元テスト・定期考査の結果を基に評価を行う。			
評価 の 観 点	関心・意欲・態度			歴史を学ぶ意義に気付き、近現代に至る歴史的な事実と現在との結び付きを意欲的に調べ考え、関心を持って学習に取り組んでいるか。			
	思考・判断・表現			近現代史を中心とする日本の歴史の展開から課題を見だし、日本を取り巻く国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現できるか。			
	技能			近現代の日本の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。			
	知識・理解			近現代の基本的な歴史的な事実に関する知識を身に付け、現在の社会が成立し発展する過程を理解しているか。			
授業 の 内 容	学期	月別	時間	単元	学 習 内 容	学 習 の 観 点	資 質 力
	1 学 期	4	3	第1編「私たちの時代と歴史」	私たちの時代と歴史・古代・中世・近世・近代への動き	世界史での学習を確認しながら、日本の歴史を捉えることができたか。	主体 自他 継続 コミ 思考 判断 対応 基礎 専門
		5	6	第1章「近代への転換」	異国船の接近と幕藩体制の動揺、蘭学と国学の普及、開国と社会の変動、尊王攘夷から倒幕へ、明治維新と新政府の成立	幕末期の内政と外交の諸問題及び、開国後の社会が倒幕へと展開したことを理解できたか。	
		6	6	第2章「大日本帝国の形成」	文明開化と復古、地租改正と富国強兵、アジア外交と国境問題、民権思想と国会開設運動、私擬憲法と政党の結成、大日本帝国憲法の制定	幕末期の内政と外交の諸問題及び、開国後の社会が倒幕へと展開したことを理解できたか。	
		7	6	第3章「大日本帝国の展開」	条約改正、朝鮮政策と日清戦争、日露戦争と朝鮮、朝鮮の植民地化、資本主義と寄生地主、社会問題の発生	日清・日露戦争を通じた朝鮮支配の展開、新たに生じた社会問題、社会運動を理解できたか。	
		8	7	第4章「両大戦間の世界と日本」	大正デモクラシー、第1次世界大戦、日本資本主義の成長、米騒動と改造の時代、男子普通選挙法と治安維持法、大正デモクラシーと文化	国際協調体制の中で、中国や朝鮮の民族運動が高まったことを理解できたか。	
		9	7				
	2 学 期	10	8				主体 自他 継続 コミ 思考 判断 対応 基礎 専門
		11	10	第5章「15年戦争と日本・アジア」	侵略戦争への序幕、満州事変と「満州国」、日中戦争、第2次世界大戦と日本、アジア太平洋戦争、戦時下の国民生活、日本の敗戦	国際協調体制の中で、中国や朝鮮の民族運動が高まったことを理解できたか。	
		12	11	第6章「戦後改革と高度経済成長」	戦後世界と日本、日本国憲法と民主主義体制、サンフランシスコ平和条約、日米安保条約、高度経済成長と公害、ベトナム戦争と沖縄	冷戦構造の下で資本主義陣営に組み込まれ、急激な経済発展を遂げた一方、公害などの問題が生じたことを理解できたか。	
		1	3	第7章「現代の世界と日本」	低成長への転換、経済大国と国民生活、世界の変動と国際関係、湾岸戦争後の世界と日本、バブル崩壊と政界再編・21世紀の日本社会、21世紀の世界と日本、現代からの探求、世界にひろがる憲法9条	低成長経済の中での国民生活の状況や、冷戦終結後の国際情勢の変化に対応した日本外交の推移、及び、今後の課題について理解できたか。	
		2	3				
		3	3				
	計			70			

教科年間学習指導計画
ー シ ラ バ ス ー

教科名	数学	学年・クラス	3年工業技術科
科目名	数学Ⅱ	単位数	2
教科書	新版数学Ⅱ 新訂版（実教・数Ⅱ321）		
準教科書	なし		

学 習 の 目 標			・ 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ・ 数の範囲や式の性質に着目し論理的に考察する力、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し事象を数学的に考察したり、統合的・発展的に考察したりする力を養う。 ・ 数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
学習の進め方			・ 例題などを用いて解法の解説を行い、それに関連する練習問題に取り組むことで学習の定着を図る。 ・ 授業内容は各自ノートに記載し、授業の最後に提出する。また、必要に応じてプリント提出を課す。 ・ 本時の内容や前時の内容の理解度を確認する小テストを実施する。 ・ いくつかの単元ごとに内容の理解度を確認する単元テストを実施する。				
学習の留意点			・ 授業中は学習に集中して取り組み、小テストで確実に得点をとることができるようにする。 ・ ノート、プリントなどの提出を課されたものは確実に提出する。 ・ 学習の障害になると判断される行動をとらない。				
評価の方法			提出物の状況、各種テストの得点、授業の取組姿勢などを総合的に判断し評価する。				
評価の観点	関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。					
	数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。					
	数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。					
	知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。					
授業の内容	学期	月別	時間	単元	学 習 内 容	学 習 の 観 点	資 質 力
	1	4	6	1 方程式・式と証明	1 節 式の計算	・ 3次式の公式や因数定理を利用して展開や因数分解ができる。 ・ 多項式の除法や分数式の四則計算ができる。複素数の意義を理解し、四則計算をすることができる。 ・ 等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し証明することができる。	主体 自他 継続 思考 判断 対応 基礎
		5	8		2 節 複素数と方程式		
		6	8		3 節 式と証明		
	2	7	6	2 図形と方程式	1 節 点と直線	・ 内分点、外分点の位置や2点間の距離を求めることができる。 ・ 座標平面上の図形を方程式で表すことができる。軌跡を求めることができる。 ・ 不等式の表す領域を求めることができる。 ・ 図形を方程式を用いて表現し考察することができる。	主体 自他 継続 思考 判断 対応 基礎
		8	4		2 節 円		
		9	6		3 節 軌跡と領域		
	3	10	8	3 三角関数	1 節 三角関数	・ 角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解することができる。 ・ 三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 ・ 三角関数の相互関係など基本的な性質を理解することができる。 ・ 三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。 ・ 2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	主体 自他 継続 思考 判断 対応 基礎
		11	8				
		12	4		2 節 加法定理		
		1	4				
	4	2	6				
		3	2				
計		70					

教科年間学習指導計画
ー シ ラ バ ス ー

教科名	理科	学年・クラス	3年工業技術科
科目名	物理基礎	単位数	2
教科書	物理基礎 改訂版（啓林館・物基315）		
準教科書			

学習の目標				- 日常生活との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探求しようとする態度を養う。 - 身近な事物・現象について、実験の技能や観察方法を学ぶとともに、科学的に探求する思考力や判断力を養う。			
学習の進め方				- 各時におけるテーマに関する教科書の内容について定式化し、物理現象への理解を深める。 - 教科書の内容に関する課題に取り組み、科学的な思考力を磨く。 - 実験プリントに沿って課題に取り組み、実験の技能や観察力を養う。			
学習の留意点				- 計算を要する課題があるため、毎時間電卓を使用する。 - 授業や実験に関する課題プリントを課すので、期限を守って提出する。			
評価の方法				主に授業及び実験のプリント達成状況、単元テストの得点を総合的に判断し、評価する。			
評価 の 観 点	関心・意欲・態度			様々な事象について関心を持ち、授業の課題に取り組み、発言できる。			
	思考・判断・表現			科学的に探求する思考力や判断力が身に付いており、単元テストの課題を達成できる。			
	技能			様々な物理現象について図などにより整理する技能を持ち、単元テストの課題を達成できる。			
	知識・理解			物体の運動と様々なエネルギーについて理解が深まっており、単元テストの課題を達成できる。			
授業 の 内 容	学期	月別	時間	単元	学 習 内 容	学 習 の 観 点	資 質 力
	1 学 期	4	12	1部 物体の運動とエネルギー 1章 物体の運動	速度 加速度 落体の運動	- 直線運動について観察や考察し、物体の運動の基本的な表し方について探求し、知識を身に付ける。 - 加速運動について観察や考察し、落体の運動について探求し、知識を身に付ける。	主体 継続 思考 判断 基礎
		5					
		6	12	2章 力と運動	力 運動の法則 様々な力と運動	- 物体に働く様々な力について、その種類や表し方などについて探求し、知識を身に付ける。 - 物体の運動の変化について、ニュートン力学の視点で観察や考察し、運動の法則について理解する。	
	2 学 期	7					主体 継続 思考 判断 基礎
		8	12	3章 仕事とエネルギー	仕事 運動エネルギーと位置エネルギー 力学的エネルギーの保存	- エネルギーについて仕事の概念と関連づけて観察や考察する。 - 力学的エネルギーの保存などの基本的な原理、法則を探求し、知識を身に付ける。	
		9					
	3 学 期	10	9	2部 熱	熱と温度 熱量 熱の利用	- 熱と温度について熱運動の視点から観察や考察をする。 - 熱エネルギーの移動や仕事への変換について探求し、知識を身に付ける。	主体 継続 思考 判断 基礎
		11					
		12	9	3部 波	波の伝わり方 波の性質 音波の性質 音波の振動	- 波の伝わる様子や性質について探求し、知識を身に付ける。 - 気柱や弦の共鳴から音波の性質について観察や探求をする。	
	4 学 期	1	9	4部 電気と磁気	静電気 電流 電磁誘導と発電機 交流と電磁波	- 物質の電気抵抗について材質や形状などの違いに着目して、観察や考察する。 - 電磁場や交流の発生とその利用について探求し、知識を身に付ける。	主体 継続 思考 判断 基礎
		2					
		3	7	5部 物理と私たちの生活	様々なエネルギーとその利用 物理学が拓く世界	人類が利用可能な様々なエネルギーの特性や利用などについて観察や考察し、理解を深める。	
計			70				

教科年間学習指導計画
ー シ ラ バ ス ー

教科名	保健体育	学年・クラス	3年工業技術科
科目名	体育	単位数	1
教科書	なし		
準教科書	なし		

学習の目標				・単元（種目）毎の課題や自己能力に応じて運動技能を高め、基本的な動作やそれぞれの種目の特徴やルールを理解できるようにする。 ・各種運動における自己の役割を自覚して、その責任を果たし互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度が取れるようにする。			
学習の進め方				・単元毎に実技（授業）を進める上で自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることができるようにする。			
学習の留意点				・他との協調性を身に付けるとともに、運動に親しむ姿勢を身に付ける。 ・一斉授業またはグループ学習により、生徒の自主性、協調性、責任感などを育てる。 ・生徒への生涯を通じて自らの健康を適切に管理できる能力育てる体育授業展開を行う。 【服装について】 指定ジャージ・指定上靴を着用すること。			
評価の方法				「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」を総合的に判断し評価する。			
評価の観点	関心・意欲・態度 思考・判断 表現 技能 知識・理解	関心・意欲・態度		・積極的に運動しているか。 ・協力して運動しているか。 ・健康や安全に注意しているか。			
		思考・判断・表現		・課題を見つけ出しているか。 ・課題の解決を目指して、運動の仕方を工夫しているか。			
		技能		・技能を高めているか。 ・体力を高めているか。			
		知識・理解		・運動の合理的な行い方を身に付けているか。 ・運動の仕方や体力の高め方を理解しているか。 ・種目の特性、ルールや審判法を理解しているか。			
授業の内容	学期	月別	時間	単元	学 習 内 容	学 習 の 観 点	資 質 力
		4	2	・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動 ・集団行動	・手軽な運動やリズムのある運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わう。 ・授業に必要な列の増減などを学ぶ。	・運動に必要な体力の重要性を理解し、楽しみながら運動に親しむ姿勢を身に付ける。	主体継続判断
		5	8	・バスケットボール	・各種の特性に応じた個人的技能や集団的技能を身に付けながら、協調性やチームプレーを生かした攻防を展開してゲームを行い、その楽しさを味わう。	・基礎基本の技術と基本的なルールを理解し、競技の楽しさにつながる練習ができる。	主体自他継続
		6				・ルールや審判法を理解し、知識を身に付けることができる。	コミ
		7	8	・バレーボール		・自己の能力に応じて技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。	思考判断対応基礎
		8					
		9	3	・体育理論 ・新体力テスト	・運動やスポーツの効果的な学習の仕方を学ぶ。	・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。	主体思考判断基礎
	学期	10	6	・フットサル	・各種の特性に応じた個人的技能や集団的技能を身に付けながら、協調性やチームプレーを生かした攻防を展開してゲームを行い、その楽しさを味わう。	・基礎基本の技術と基本的なルールを理解し、競技の楽しさにつながる練習ができる。	主体自他継続
		11				・基礎基本の技術と基本的なルールを理解し、競技の楽しさにつながる練習ができる。	コミ
		12					思考判断対応
		1	8	・バドミントン	・各種の特性に応じた個人的技能を身に付け、攻防を展開しながらラリーやゲームを行い、その楽しさを味わう。	・自己の能力に応じて技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してラリーやゲームができるようにする。	主体自他継続判断対応基礎
		2					
		3					
	計	35					

教科年間学習指導計画
ー シ ラ バ ス ー

教科名	芸術	学年・クラス	3年工業技術科
科目名	美術 I	単位数	2
教科書	高校美術 I (日文・美302)		
準教科書	なし		

学 習 の 目 標				美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに感性を高め創造性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。			
学習の進め方				「A表現（1）絵画・彫刻」、「A表現（2）デザイン」、「A表現（3）映像メディア表現」、「B鑑賞」の内容を実技を中心に学習していく。			
学習の留意点				授業に必要な教材を忘れずに用意し、作品製作にしっかりと取り組む。			
評 価 の 方 法				出席状況・授業態度・作品製作の取組状況・作品の完成度を評価する。			
評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。					
	思考・判断・表現	感性や創造性を働かせ感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構成を練っている。					
	技 能	創造的な美術の表現に必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法に工夫をこらしている。					
	知識・理解	美術作品の表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。					
授 業 の 内 容	学 期	月 別	時 間	単 元	学 習 内 容	学 習 の 観 点	資 質 力
	1 学 期	4	6	絵画	幾何学形態デッサン	基本形態の把握ができる。	主体 継続 思考 判断 対応 専門 コミ
		5	6				
		6	8				
		7	6				
		8	4	彫刻	立体表現	立体構成及び表現ができる。	
		9	6				
	2 学 期	10	6	デザイン	平面デザイン	構成、色相の表現ができる。	主体 継続 思考 判断 対応 専門 コミ
		11	6				
		12	6				
		1	4				
		2	6	絵画制作鑑賞	アクリルによる静物画を制作し互いの作品を鑑賞する。	作者の制作意図を理解できる。	
		3	6				
	計	70					

教科年間学習指導計画
ー シ ラ バ ス ー

教科名	工業	学年・クラス	3年工業技術科
科目名	実習	単位数	3
教科書	なし		
準教科書	なし		

学 習 の 目 標				工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。			
学習の進め方				1. 毎時間の始めに本時の作業内容・予想される事故を確認してから、各テーマで実習を開始する。 2. 3班3テーマで展開、各班前期3時間×18週、後期3時間×17週で実施する。			
学習の留意点				1. 毎時間の出席を基本とし、欠席の場合は各実習担当の先生のところへ補習などの対応を依頼する。また、実習時間内で作品や課題を提出できない場合も同様に補習等の対応を依頼する。 2. 安全防具等を必ず着用し、自分で自分の身を守る。			
評価の方法				実習項目毎に評価を行い、学年末に全担当の先生で協議し決定する。			
評価 の 観 点	関心・意欲・態度			実習内容に関心をもって実習担当の先生の指導を聞き、安全に配慮した作業を行うことができる。			
	思考・判断・表現			指導された内容を理解した上で、効率のよい作業方法を自ら考え判断し作業を行うことができる。			
	技能			実習の方法を把握し、完成度の高い作品を作成することができる。			
	知識・理解			各種機械と加工方法について理解している。			
授 業 の 内 容	学期	月別	時間	単元	学 習 内 容	学 習 の 観 点	資 質 力
	1 学 期	4	9	旋盤	3級技能検定課題	・実習服や安全防具などを正しく着用する。 ・各実習項目で可能性のある危険を学習する。 ・各種機械や工具の名称を学習する。 ・実習内容の理論や仕組みを学習する。 ・機械の操作方法を学習する。 ・基礎的な技術を身に付ける。 ・効率がよい後片付けや掃除を自ら行う。	主体 継続 思考 判断 基礎 専門
		5	12				
		6	12	溶接	焼肉コンロの製作		
		7	3				
		8	9	全体図・組立図	JW-CADによる図面作成		
		9	9				
	2 学 期	10	12	板金	工具箱の製作	・実習服や安全防具などを正しく着用する。 ・各実習項目で可能性のある危険を学習する。 ・各種機械や工具の名称を学習する。 ・実習内容の理論や仕組みを学習する。 ・機械の操作方法を学習する。 ・基礎的な技術を身に付ける。 ・効率がよい後片付けや掃除を自ら行う。	主体 継続 思考 判断 基礎 専門
		11	12				
		12	6	N C 旋盤	N C 旋盤の取り扱いとプログラミング		
		1	6				
		2	12	木材加工	木製スツールの製作		
		3	3				
	計	105					

教科年間学習指導計画
ー シ ラ バ ス ー

教科名	工業	学年・クラス	3年工業技術科
科目名	製図	単位数	2
教科書	機械製図（実教・工業302）		
準教科書	なし		

学 習 の 目 標			・製図に関するJIS（日本工業規格）及び機械製図や各種建築工事について基礎的な知識と技術を習得させ、製図法、設計法などを正しく読み、図面を構想し製作する能力と態度を育てる。				
学習の進め方			・機械製図における規格、種類、図示法、構造などについての基礎を学習する。 ・製図の基礎を理解し、製図法について段階的に復習しながら習得する				
学習の留意点			・基本的な線の引き方や文字の書き方などの図面の描き方のルールに従って図面を作図する。 ・作成する図面の記号や寸法などを理解した上で図面を作成する。 ・提出期限を厳守する。				
評価の方法			・出席状況・製図の取組み状況（毎時間）と製図に対しての理解、知識や技術が身に付いたか評価を行う。				
評価の観点	関心・意欲・態度		・製図について関心や探求心を持ち、意欲的に追求する態度を身に付けようとしている。				
	思考・判断・表現		・製図における基礎的・基本的な知識を活用して、適切に判断し、創意工夫して製図法を身に付けようとしている。				
	技能		・J I S規格や作図の方法について理解し、それらを活用して作図することができる。				
	知識・理解		・図面における作図法や、製図器、ドラフターの仕組、J I S規格について理解することができる。				
授業の内容	学期	月別	時間	単元	学 習 内 容	学 習 の 観 点	資 質 力
	1学期	4	6	レタリング法	文字デザイン	・基本の書体を理解し、整った文字を書くことができる。	主体 継続 思考 判断 対応 基礎 専門
		5	10		書体の理解	・様々な書体の違いについて理解している。	
		6	8	トレース技法	線の基本 製図用文字	・製図のルールに従い、トレースすることができる ・図面を表現する際の初歩的な事項について理解している。	
		7	4		簡単な図 簡単な製図		
		8	4				
		9	4		図面表現に関する初歩的事項		
	2学期	10	4	第4章 機械要素の製図	小型万力部品の作図	・枠線及び表題欄を描くことができる。 ・製図の実技能力や基礎知識が理解できる。 ・実線、細線を描き分けることができる。 ・寸法記入を正しく描くことができる。 ・縮尺を理解して正しく作図することができる。 ・組立図と部品図の関係を正しく理解し、作図することができる。	主体 継続 思考 判断 対応 基礎 専門
		11	8				
		12	6				
		1	4	第4章 機械要素の製図	小型万力組立図の作図		
		2	6				
		3	6				
	計	70					

教科年間学習指導計画
ー シ ラ バ ス ー

教科名	工業	学年・クラス	3年工業技術科
科目名	材料技術基礎	単位数	2
教科書	工業材料（実教・工業340）		
準教科書	なし		

学 習 の 目 標			各種工業材料の性質や特徴に関心を持ち、材料に関する基礎知識を意欲的に学習し、身のまわりの製品や道具に使われている材料と性質との関係を考察する態度を育てる。				
学習の進め方			・基本的に教科書に沿った内容の授業を行う。 ・各項目ごとに小テスト、単元終了ごとに単元テストを実施する。 ・単元ごとに短時間の面談を行い、学習の評価・改善を行う。				
学習の留意点			・毎時間の出席を基本とする。 ・授業に必要な物（教科書、ノートなど）は、忘れずに準備する。 ・ワークシートは期限内に提出する。				
評価の方法			提出物、学習状況、小テスト及び単元テストの成果を各単元ごとに評価する。				
評価の観点	関心・意欲・態度	工業材料について関心や探究心を抱き、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。					
	思考・判断・表現	工業材料に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。					
	技能	工業材料に関する基礎的な知識を身に付け、適切な使用方法について判断できる。					
	知識・理解	工業材料に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解している。					
授業の内容	学期	月別	時間	単元	学 習 内 容	学 習 の 観 点	資 質 能 力
	1学期	4	8 4	第1章 工業材料の開発の歴史	①工業材料の生活文化 ②工業材料の分類と特徴	身のまわりにある製品や道具が工業材料でできていることを認識し、その材料をおおまかに金属・セラミックス・高分子あるいは機能性・構造用に分類できる。	継続思考専門
		5					
		6	8 6	第2章 工業材料の性質	①物理的・化学的性質 ②状態図と結晶組織 ③機械的性質と加工	工業材料にはどのような種類があるのか学習し、工業材料の性質について理解できる。	継続思考専門
		7					
		8	8 4	第3章 材料の試験と検査	①機械的性質の試験	各材料試験の種類について学習し、各材料試験についての違いと検査方法について理解できる。	継続思考専門
		9					
	2学期	10	6 3 3	第4章 構造用材料	①炭素鋼 ②合金鋼 ③鋳鉄	構造用材料にはどのような種類があるのか学習し、構造用材料の構造と性質及び用途について理解できる。	継続思考専門
		11					
		12	8 5	第5章 機能性材料	①材料の機能について ②導電・抵抗材料 ③半導体材料 ④磁性材料	機能性材料にはどのような種類があるのか学習し、機能性材料の構造と性質及び用途について理解できる。	継続思考専門
		1					
		2	3 2 2	第6章 環境と材料	①工業材料と安全 ②リサイクル技術	工業材料と環境の関係について問題意識を持ち、リサイクルの必要性を理解し、その方法について積極的に知ろうとする。	継続思考専門
		3					
	計	70					